

立木とネットを利用した軽量なシカ捕獲用囲いワナの開発

果樹試験場 主任研究員 角川 敬造

【要約】

立木と高強度ポリエチレン繊維ネットを用いた囲いワナ（以下、「軽量ネット製囲いワナ」という。）を考案した。このワナは、防護柵の穴や隙間から侵入するシカの習性を利用したもので、ネット地際部からもぐり込ませて捕獲する。一般の金属製囲いワナと比べて軽量で運びやすく低コストなため、シカ捕獲ワナとして有効である。

【背景・ねらい】

シカの被害対策には捕獲による生息密度の低下が有効なため、捕獲数を増やす必要がある。効率的に捕獲数を増やすには、多頭を一斉に捕獲できる囲いワナが有効であるが、一般に販売されている囲いワナはコストが高いことに加え、金属製で重いためトラックで運搬できる場所への設置に限られる。そこで、低コストかつ軽量で簡易に設置できる新しい囲いワナを開発した。

【成果の内容・特徴】

- 1) 開発したワナは、立木の高さ 2m 程の位置に円周状になるようにロープを張る。それに上下両端にロープを通した 2m 高のシカ防護ネットの上端ロープをカラビナで接続し、円柱形にネットを設置する。ネットの下部を円の内側にすぼめすり鉢状にし、下部から侵入させ捕獲する構造である（図 1）。
24m 長のネットを利用した場合の資材費は、約 8 万円、総重量約 16kg、1 人で約 2 時間で設置でき、従来の囲いワナと比べて低コストで運びやすくかつ簡易であり、シカ捕獲ワナとして有効である（図 2）。
ワナの形状は、ネット下部にロープを周回させ、裾部を 50cm 以上内側に窄める形状で設定すれば、侵入・捕獲後に大きな音を立てないので同じ場所で捕獲を行うことが可能である（表 1）。
- 2) ワナ設置直後は、裾部を地表から 40~50cm 上げ、誘引餌（ヘイキューブ）をワナ内外に置く。ワナへの馴れに伴い裾部を徐々に下げ、シカが入りやすい場所に入口 1ヶ所（高さ 40cm、紐で 1 点をつり上げる。）を設置する。
- 3) 捕獲後のシカの保定は、囲いワナの一部を外側に広げ、シカを追い込む三角コーナー（幅 1m、奥行き 1.1m）を設置し（図 3）、シカがそのコーナーに入った瞬間にロープを引いて左右のネットを閉めるようにして動きを制限する（図 4）。

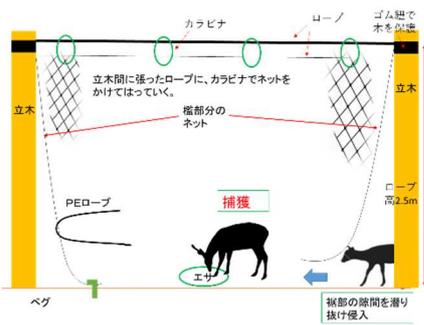


図1 軽量ネット製囲いワナの構造
(横から見た図)



図2 資材一式

コンテナに収まるので設置場所へ背負って運搬が可能

(ワナのサイズ：外周 24m)

資材費は一般の金属製囲いワナ (4m×4m) に比べて、約 1/10



表1 捕獲結果 (R5年)

捕獲年月日	性別	頭胴長	体高	体重 (kg)	備考
R5. 6. 21	オス	100	50	推定20kg	当年仔
R5. 6. 26	オス	100	65	推定20kg	当年仔 前回の捕獲から5日後
R5. 12. 20	オス	110	90	32.2	2歳 前回の捕獲から約6ヶ月後

※R5. 6. 21 及び 6. 26 の捕獲個体は、計量しなかったため、推定体重

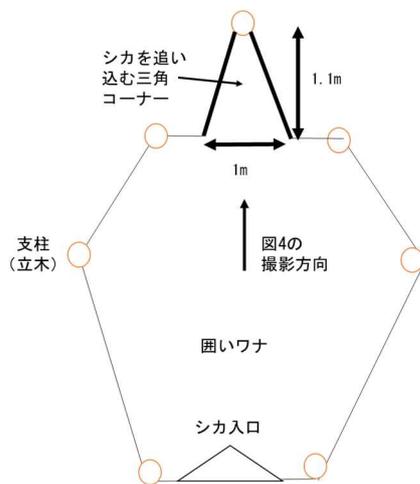


図3 シカを追込む三角コーナーを設けた
囲いワナの例 (上から見た図)

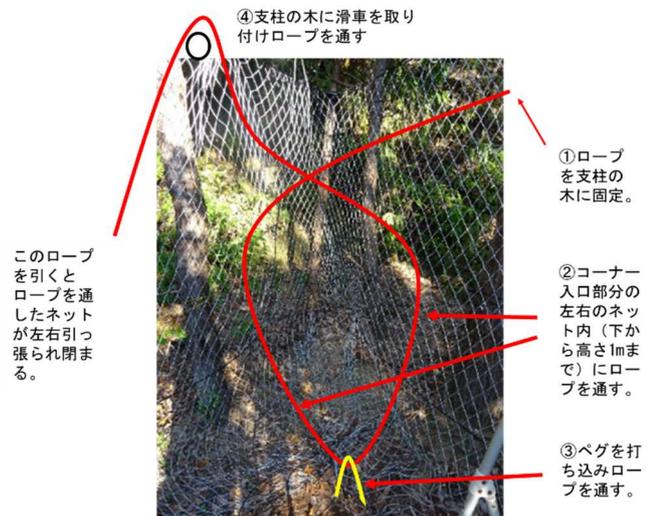


図4 三角コーナー入口部にロープを入れ、入口が
閉まるようにした